

[ここに入力]
(様式6—1)

実績概要 (ホームページ掲載用)

研究又は活動のテーマ	建物を大切にすること - 名建築と宮崎 -
助成事業者	ひむかへリテージ機構
代表者	川越祐子
<p>(目的)</p> <p>現在、多くの建造物が30年、40年で解体されている。建物を大切に使うということとはどういうことか、宮崎に現存する築50年を超える代表的な建築を通して考えたい。著名な建築家が設計する建造物も、建てて終わりではない。そこからのメンテナンス、大幅な改築、歴史や価値の発信など、竣工後の関わりの細やかさが重要である。建築の保全活用について講習会や見学会等を通して学ぶ。建築にまつわる思いや歴史・物語を知ること、地域の宝を掘り起こし、まちづくりに活かすことにもつなげていく。</p> <p>(概要)</p> <p>宮崎県には、日本を代表するモダニズムの建築家・坂倉準三が関わった建築が3軒ある。宮崎県総合博物館、宮崎県青島青少年自然の家、宮崎県東京ビルである。宮崎県と坂倉準三とのつながりと、その設計思想について学ぶ講習会と見学会を企画した。</p> <p>令和4年1月29日(土)に宮崎県総合博物館にて講習会、1月30日(日)に宮崎県青島青少年自然の家で見学会を予定し、講習会の内容は以下を企画していたが、コロナウイルス拡大の影響のため、今年度は中止となった。</p> <p>講習会内容 坂倉準三の師ル・コルビュジエ研究者でもある東京理科大学工学部建築学科・山名善之教授「坂倉準三が日本に遺したもの」 元坂倉準三建築研究所所員である建築家・室伏次郎氏「坂倉建築研究所の思い出とわたしの建築」 島根県職員で、県所有のモダニズム建築の活用・発信を続ける山本大輔氏「島根の公共建築 営繕の中で見えてきたこと」</p> <p>事前に、宮崎県総合博物館の担当者と打ち合わせ、当時の図面資料を撮影、工事中や竣工当時の写真をまとめた。また、講師の山名氏、室伏氏と東京で打ち合わせ、県東京ビルの見学、50年住み継ぐ室伏氏の自邸見学・撮影を行った。 次年度以降、何らかの形で同じ企画ができるよう考えている。</p>	